報告書

小学生の子どもを持つ保護者の性教育に関する意識調査

NPO法人
せいしとらんし熊本
Comprehensive Sexuality Education in Kumamoto

はじめに

誰一人、性被害者にも
性加害者にもさせない

私たちの使命

NPO法人せいしとらんし熊本は、ある一人の母親が、自身の子育ての中で性教育の重要性を痛感し、性の学びを始めたことがきっかけでスタートしています。

私たちは、誰もが性に関する正しい知識を学べるような環境を実現すること、誰もが気軽に性に関する相談ができる存在であり続けることを目指す性教育の団体です。

目指す社会

私たちは３つの社会の実現を目指しています。

１．性犯罪のない社会
　「命」の学びを通じて、誰もが自他の命、心や体を大切にできる社会
２．教育（性教育）格差のない社会
　正しい「性知識」の学びを通じて、自分の人生を主体的に選択できる社会
３．多様な性を認め合う社会
　人生の土台となる「性」の学びを通じて、誰もが自分らしく生きられる社会

概要

正しい性知識がないばかりに、子どもたちが気づかぬうちに、性被害者（性加害者）となり、深い心の傷をもってしまっています。知識不足による望まない妊娠を回避するためにも、小学生からの学びが必要だと実感しています。自分の命を慈しむことができたり、自分の体を守る術が教育されていたなら、このような事柄は減少するであろうと考えます。

命を大切にする包括的性教育に積極的に取り組む必要があり、そのために大人も性について学び、子どもたちに伝えることができる環境を急速に整える必要があります。

この調査は、現代の性教育の課題やニーズを明らかにすることで、子どもたちがより良い教育を受けることができるよう、社会に働きかけるために小学生の保護者を対象に実施した、性教育に関する実態（意識）調査です。

社会課題

　コロナ禍によって子どもだけで過ごす時間が増えたこと、自粛生活へのストレスなどが性被害の深刻化に拍車をかけています。令和3年度、当法人にはＳＮＳでの性的なトラブルに関する小学生の保護者からの相談が3件、その他ＳＮＳ以外の性的なトラブルによる相談も含めると合計8件の相談がありました。少ない数字と思われるかもしれませんが、一人たりともこのようなことが起きてほしくないと願う一心です。また、誰にも伝えられず、違和感や嫌悪感を抱いたままの子どもも多いです。主な要因としては以下に挙げる3点があります。

・低年齢化
　SNS普及により性被害の低年齢化が進んでいます。また、子ども同士の遊びの中で傷つけてしまう事例があります。正しい知識を知らないばかりに、子どもたちが気づかずに、性被害者（性加害者）となり、深い心の傷をもってしまっています。

・理解が乏しいことによる二次被害
　性被害の理解が乏しために性加害者を生み出す可能性もあり、身体機能だけではなく言葉による性暴力が17.8%と最も高い現実があります（※1）。また、どのような行為が「性暴力」なのかを認識しないまま成長し、実際に人を傷つけたり、被害に遭っても性被害なのかを認識できず、相談することを躊躇してしまう状況があります。

・相談先の不足
　性被害相談窓口はあるものの、相談することを躊躇したり、そもそも相談窓口の存在を知らなかったという理由から、全国の性被害者の67.9%がどこにも相談できていない現状があります（※2）。

　命を大切にする包括的性教育に積極的に取り組む必要があり、そのために大人も性について学び、子どもたちに伝えることができる環境を急速に整える必要があります。
正しい性知識を持った若者が健全な人間関係を築くことでこそ社会課題の深刻化を防ぐと私たちは考えています。

ーーーーー

(※1)（令和4年6月17日内閣府男女共同参画局若年層の性暴力被害の実態に関するオンラインアンケート及びヒアリング結果<概要より）若年層の性暴力被害の実態に関するオンラインアンケート及びヒアリング結果＜概要＞ (gender.go.jp)

(※2)内閣府男女共同参画局平成26年度調査より。

性教育に関する意識調査

誰一人、性犯罪者の当事者にさせない

主旨・目的

子どもたちがより良い教育を受けることができるよう社会に働きかけるため、現代の性教育の課題やニーズを明らかにすることを目的とし、小学生の保護者対象に「性教育に関する実態（意識）調査」を実施しました。その際、性教育に対する保護者の認識・子どもたちの現状とのギャップを把握することを目指しました。

調査方法

期間：2022年4月19日～4月22日
方法：インターネットによるアンケート
対象：小学生の保護者の方　回答者数　3,000人
・日本全国を対象とし、子どもの学年・性別、保護者の性別が均等になるよう実施
・複数の子どもがいる保護者の方には一番上の子どもについて回答いただくよう案内

調査結果概要（要約）

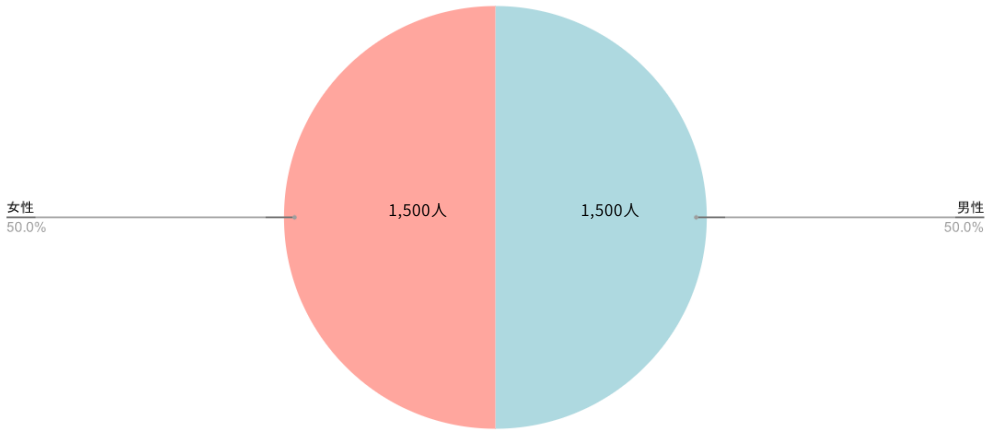
小学生に性教育を伝えるのが適切なのは保護者と感じている割合が61.2%と半分以上を占めたことから、自分事として捉えている保護者が多いことがわかりました。
小学生で習うと思う性教育に関する内容では、性交（セックス）は60%以上の保護者が習っていないと認識していますが、学んで欲しい時期を答える内容では、50%以上の保護者が小学生の時期に学んで欲しいと答えています。学校の指導内容と、保護者の習って欲しいと希望する時期にギャップがあるという結果になりました。

調査の詳細

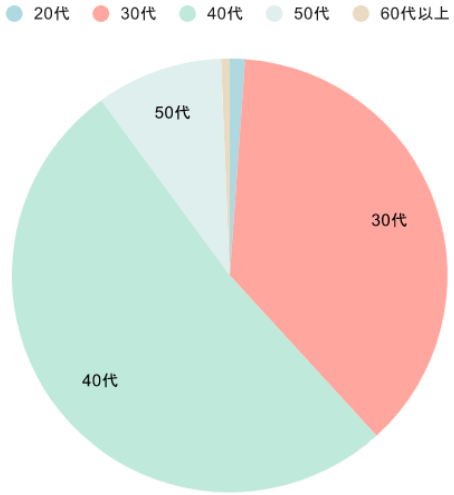
本調査は、一般社団法人コード・フォー・ジャパンNPTech助成を受け、アンケート調査会社に業務委託し行いました。　3000ｓ/29610ｓ（有効回答数/依頼対象者数）

【協力】　STO（ソーシャル・テクノロジー・オフィサー）　石井哲治　安場直史

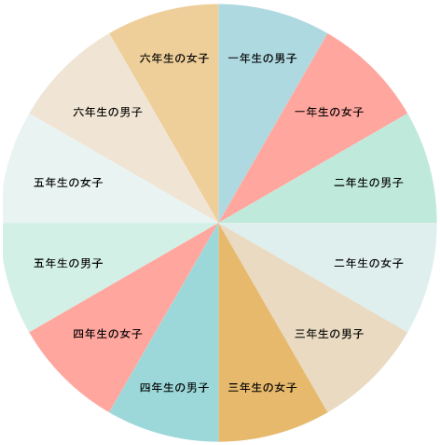
親（回答者）の性別



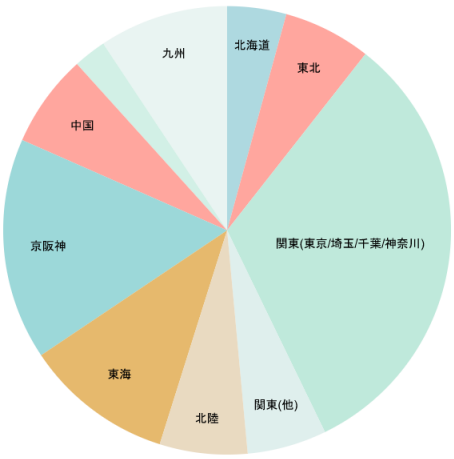
親（回答者）の年齢(※1)



長子の学年と性別の組み合わせ(※2)



エリア(※3)



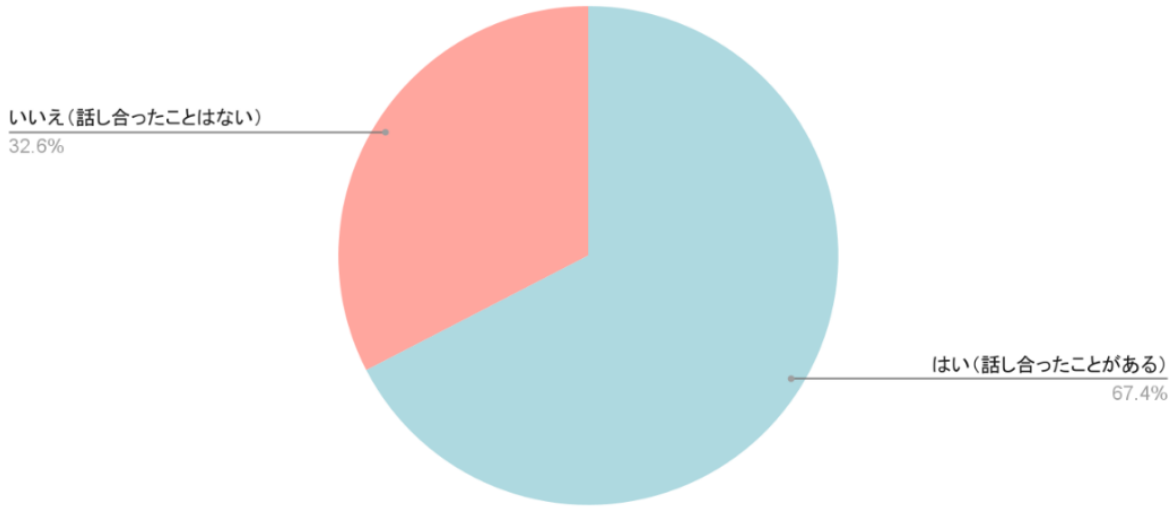
(※1)
20代…34人　30代…1,113人　40代…1,552人
50代…282人　60代…19人

(※2)
すべて同じ割合

(※3)
北海道…128人　東北…190人　関東…172
京浜…988人　北陸…190人　東海…322人
京阪神…480人　中国…201人　四国…71人
九州…280人

Q1 家庭で命の大切さについて子どもと話し合った経験の有無

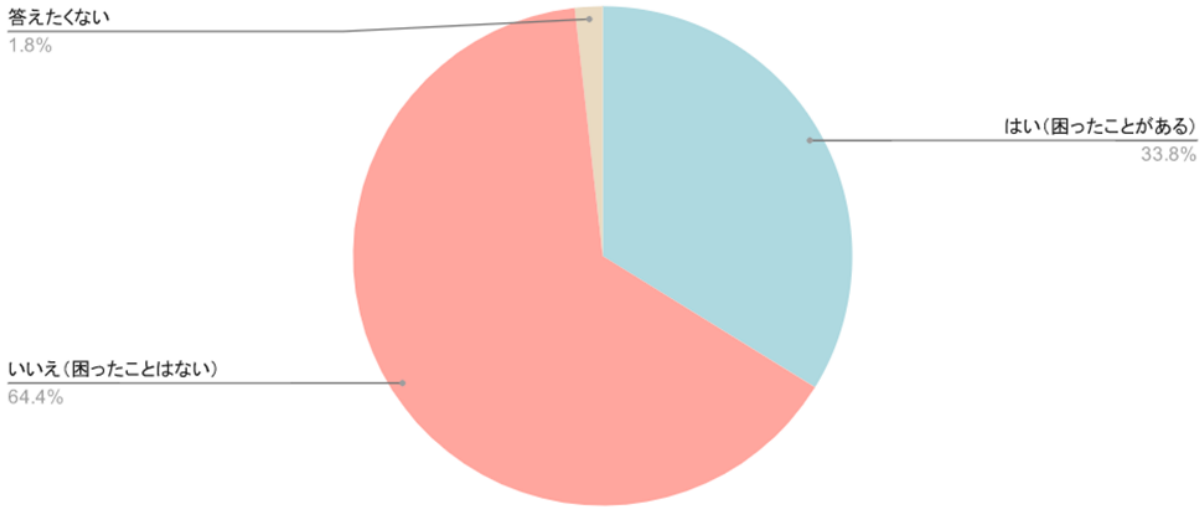
命の大切さについて、我が子に伝えたいと感じている家庭が過半数を超えています。



Q2 子どものこれまでの性的な言動で困った経験の有無

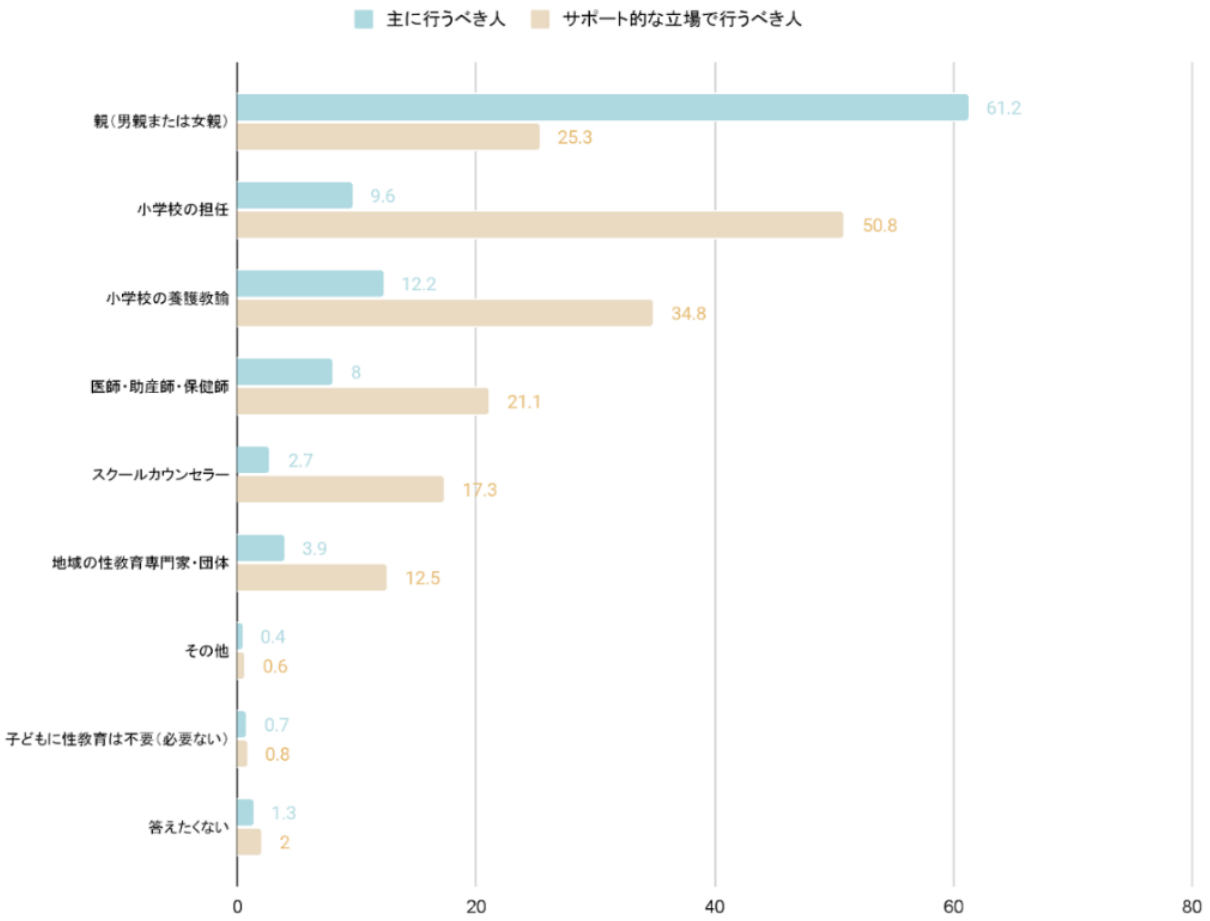
（配偶者の経験を含む）

33.8%の家庭が困ったことがあると回答しました。



Q3 小学生に対して性教育を実施するのが最適と思う立場の人
（主・サポート別）

主に行うべき最適な立場の人として、61.2%の保護者が「自分」と回答しています。次は、小学校の養護教諭で12.2%となりました。サポート的な立場としては、50.8%が小学校の担任の先生が最適と思うと回答しました。



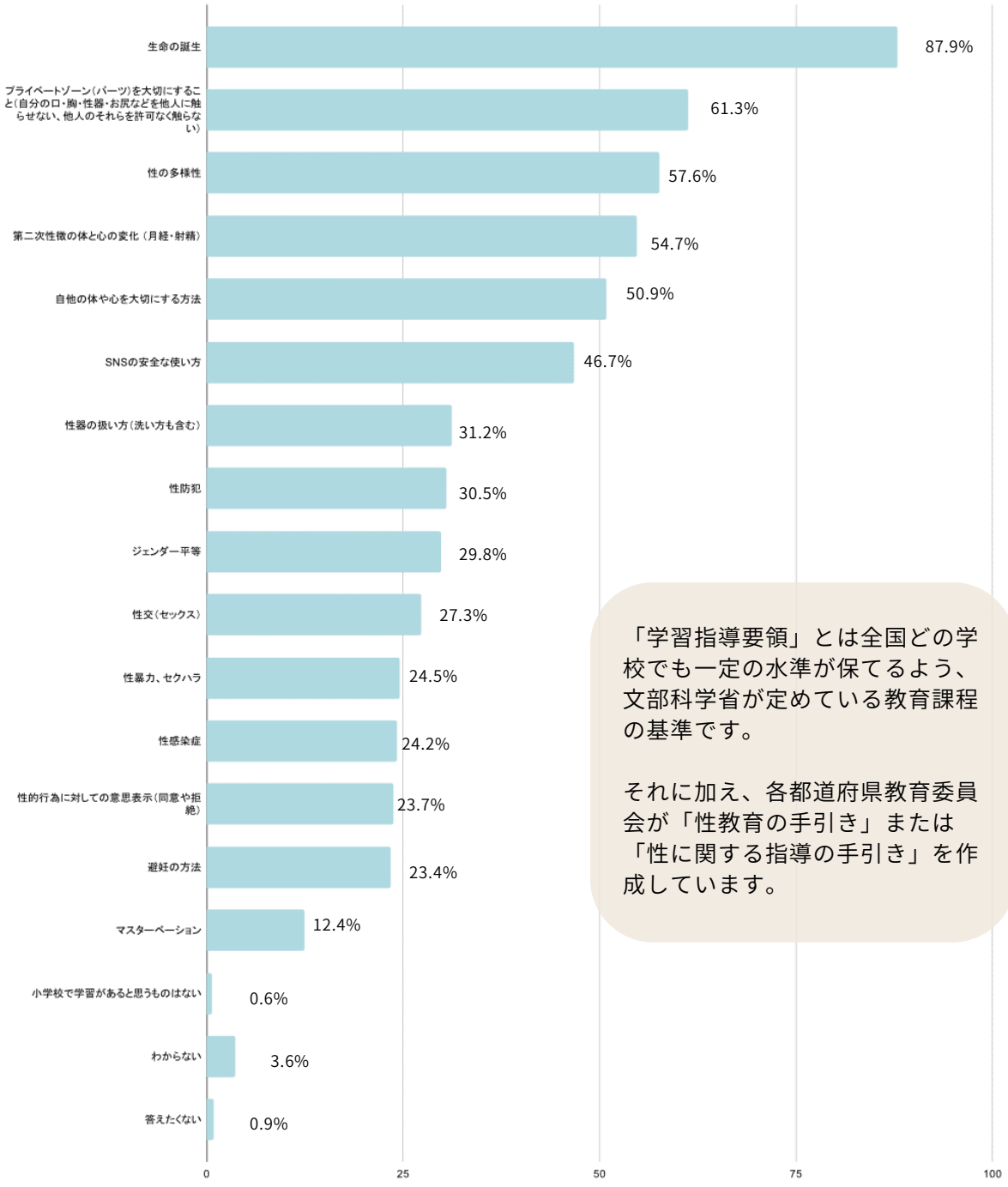
【その他のご回答】

●主に行うべき最適な人
・わからない
・自分自身で身につける
・上記のどなたでも
・祖母
・誰がと言わず親も先生もする方が良いと思う

●サポート的な立場で行うべき人
・祖父母、親族
・YouTube
・サポートは必要に感じない
・わからない
・学校薬剤師
・子供会等の地域行事
・出版社、本
・親以外での性教育は考えていない
・親以外に誰が責任を持って伝えるべきか判断しづらい
・親以外はいない
・必要なし
・友人、祖父母

Q4 小学校で習うと思う性教育に関する内容（複数回答可）

小学校で取り扱う内容と、保護者が習うと思っている項目にギャップがあります。小学校の学習指導要領において「人の受精に至る過程は取り扱わないものとする（小5理科）」となっていますが、27.3%（約4人に1人）の保護者は、小学生のうちに学ぶと思っているます。



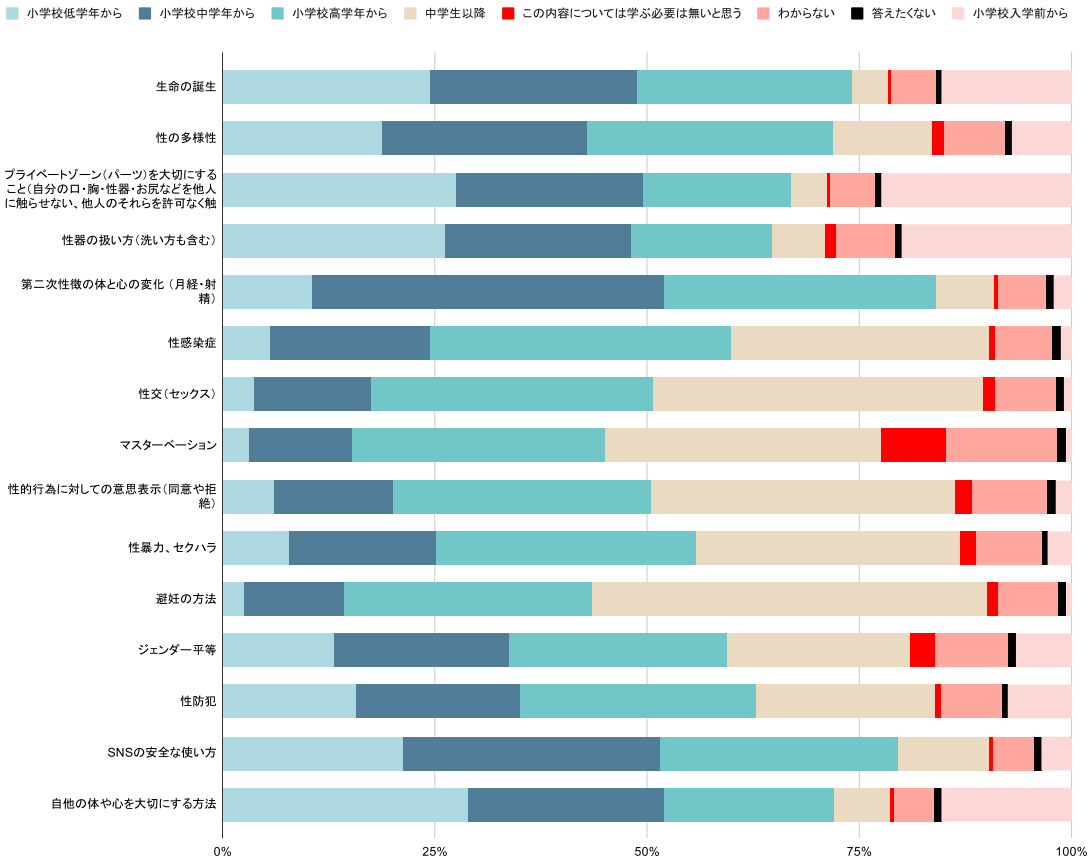
「学習指導要領」とは全国どの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程の基準です。

それに加え、各都道府県教育委員会が「性教育の手引き」または「性に関する指導の手引き」を作成しています。

参考：
●文部科学省HP　令和2年6月11日の「性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議」において、性犯罪・性暴力対策の強化の方針」生命（いのち）の安全教育
生命（いのち）の安全教育は、性犯罪・性暴力対策として 令和２年度からスタートしていますが、まだ導入しきれていない学校もあります。令和５年度～７年度を「更なる集中強化期間」と位置付けています。
https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/measures.html
https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/pdf/kyouka_01.pdf

Q5 性教育に関してお子さんに学んでほしいと思う時期

どの項目に対しても保護者は小学生のうちに学んで欲しいと思っている割合が高いです。国際セクシュアリティ教育ガイダンスに沿ってなら、マスターベーションについては9歳～12歳に学習しますが、他の項目と比べると学習する必要がないと答えた保護者が目立っています。

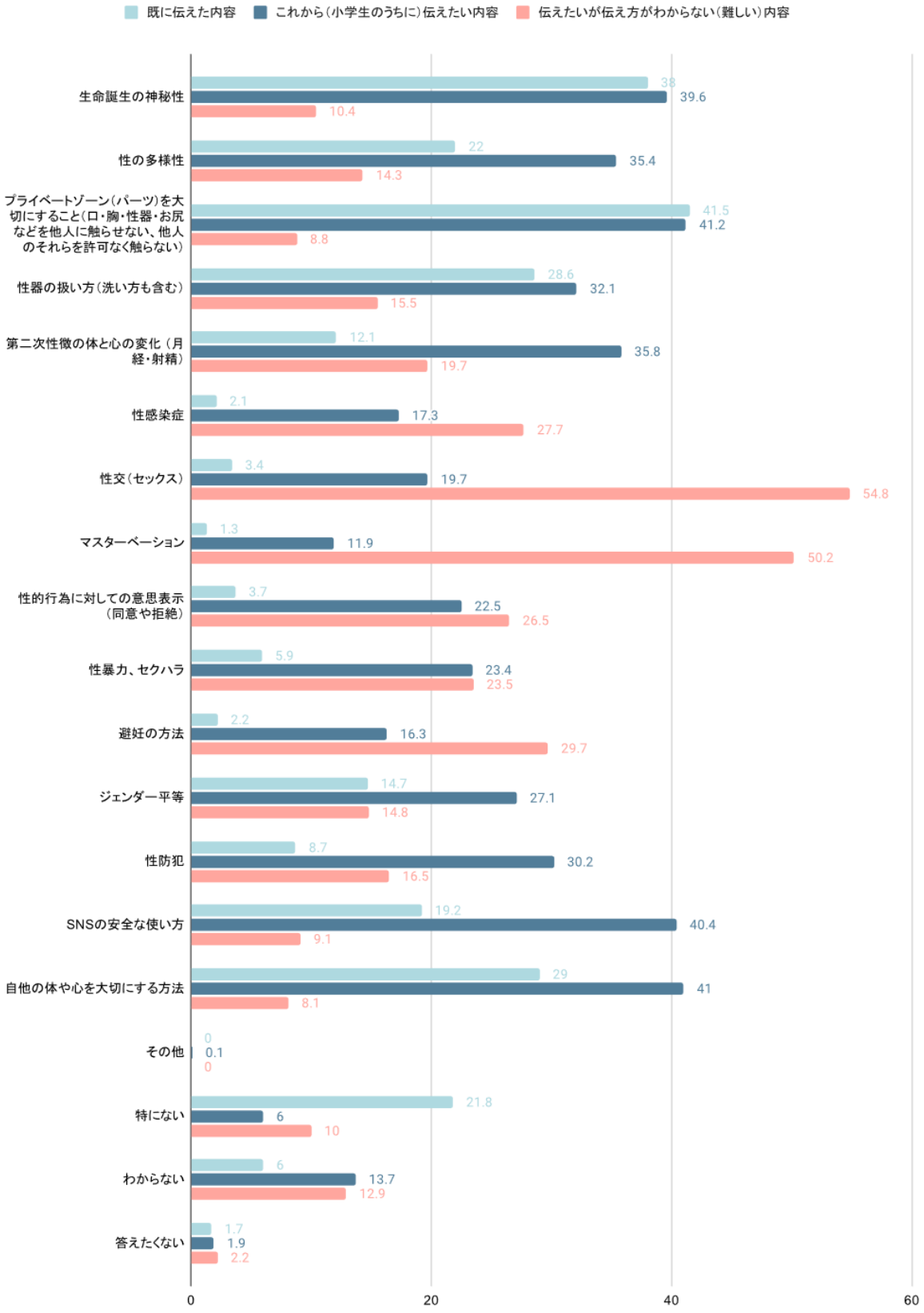


保護者が小学生のうちに学んでほしいと思っている各項目の割合は以下の通りです。

- 生命の誕生　74.2%
- 性の多様性　71.9%
- プライベートゾーン（パーツ）を大切にすること　67.0%
- 性器の扱い方（洗い方も含む）　64.8%
- 第二次性徴の体と心の変化（月経・射精）　84.0%
- 性感染症　59.8%
- 性交（セックス）50.7%
- マスターベーション　45.1%
- 性的行為に対しての意思表示（同意や拒絶）　50.5%
- 性暴力、セクハラ　55.9%
- 避妊の方法　43.6%
- ジェンダー平等　59.4%
- 性防犯　62.7%
- SNSの安全な使い方　79.5%
- 自他の体や心を大切にする方法　78.7%

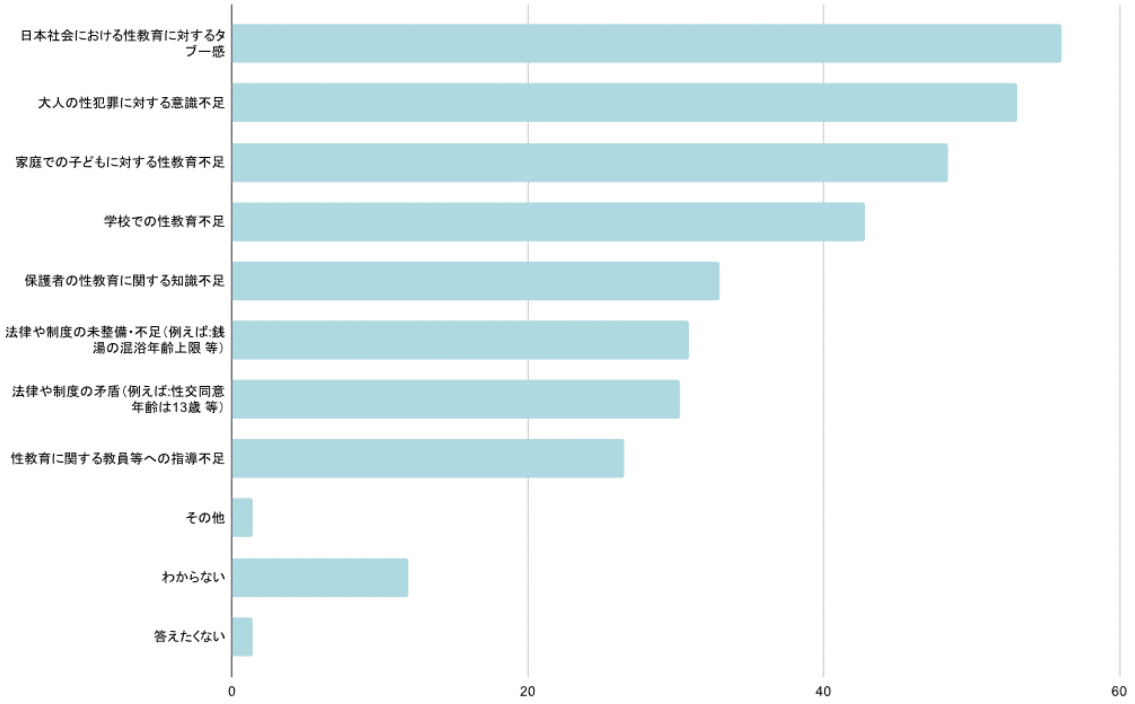
Q6 性教育に関して、家庭でお子さんに既に伝えた内容・これから伝えたい内容・伝え方がわからない内容

どの項目に対しても「伝えたいが伝え方がわからない（難しい）」と思っています。特に「セックス」は54.8%、マスターベーションは50.2%と半数以上がそう思っています。



Q7 子どもの性被害が発生する原因（複数回答可）

2番目に多い「大人の性犯罪に対する意識不足」、3番目に多い「家庭での子どもに対する性教育不足」は保護者に関する原因です。ここからも性教育を自分ごととして捉えている保護者の方が多いことがわかります。上位の3項目は自分自身や大人に対しての問題提起と言えます。



【その他のご回答】

●SNSやインターネットの普及
・SNSの使用低年齢化
・SNSの使用方法（SNSの未熟な使い方）
・YouTubeでの漫画
・インターネットやスマホの存在
・ネットで無料閲覧できてそういう動画が溢れてること
ネットの広告や必要以上の情報の氾濫

●出版物やメディアの影響
・行き過ぎた漫画
・現実と二次元との区別ができない大人、過度な表現の出版物やメディアによる煽りもあるかと
・漫画、動画などで性が軽く扱われている

●大人自身が学んでいない
・そもそも大人もきちんと習ってないから子供にも上手く教えられない
・項目全てが原因、大人もきちんと習った記憶が無く子供に教える術が無い
・保護者が子供を遅い時間まであそばせないなど、危険だと思う事から避けさせる

●ストレス社会
・社会が個人に対し過度のストレスを与え通常我慢出来るものが我慢出来なくなっている為
・自己肯定感が低いまま成人になる人が多いから

●加害側の問題
・教員の猥褻行為が多い
・教師が性犯罪者予備軍
・子どもの性被害が発生する原因は、性加害者が存在するから
・性的なコントロールが自分でできていない
・子どもへ性犯罪を犯す人間の思考
・子供に興味を持つ大人の野放し、自分の欲望を律することのできない未熟な大人の顕著な増加
・心身の成長が伴っていないこと
・犯罪を犯す人の自制心欠如
・犯罪者本人の問題

●社会制度の問題や歪み
・加害者への罰が軽い
・結婚率の低下、異常なコンプラ意識の浸透
・性を表に出さない風潮

※アンケートに記述されていたそのままを記載しました。

所感

Q1 いのちの大切さについて伝えている家庭が多く、大切だと感じているのがわかりますが、Q2 現状では性的な言動で困った家庭も33.8%あります。
家庭で困ったときに相談できるところがあるということを周知していきます。

Q3,Q4 性教育を実施するのは保護者が最適と感じてはいますが、学校側の性交は扱わない方針と保護者の学んで欲しいと思う時期に認識の差があることがわかります。性交は保護者も伝え方がわからない項目で一番多く、結果的に誰も教えていないことが問題です。それを補う形で当法人が介入し、性教育を行うことで、双方の感じているギャップを埋めることが可能となります。

Q5 生命の誕生に関して、高学年からと答えている割合も大きくなっています。思春期になってからではなく自分のルーツとして小さい頃から伝えることが必要です。性交に関しては中学年・高学年で学んで欲しいという割合が多く、積極的に伝えることの必要性を感じている結果となりました。
学ぶ必要がない・わからない項目ではマスターベーションが一番多く、大人が学んでこなかった為の誤解、知識不足からの結果を表していると考えられます。

Q6 保護者も早期（小学生）からの性教育の必要性を感じているが、伝え方がわからないとの回答を見ても保護者の困り感が大きいと感じています。
伝える必要がないと答えた項目と、伝え方がわからないと答えた項目が重複しており、保護者が気軽に相談できたり、自ら学ぶ場所の必要性を感じます。
そのためにも、関係機関よりも身近な相談相手、性教育を伝えていく存在として、積極的に保護者とも関わりを持つことで、保護者の安心感につなげることができます。

Q7 保護者が感じている子どもの性被害が発生する原因は、社会全体として包括的性教育の周知や積極的な性教育の取り組みが必要です。そのためには、関係機関や地域が連携し一体となり、子ども達を育てていく取り組みに繋げていきたいところです。

おわりに

性教育 ＝ 生教育
性教育は「生きる」を学ぶこと

包括的性教育

ユネスコが提唱する、5歳を開始年齢とし発達段階に見合った性教育のこと。これまでのような単なる生殖・月経の内容だけでなく広く、人権・安全・健康・コミュニケーションの観点から、次の８つのキーコンセプトを包括的に学ぶ。各テーマをその年齢に合わせて、繰り返し積み重ねていくことで知識、態度、スキルを育む教育です。

----- 国際セクシュアリティ―教育ガイダンス８つのキーコンセプト -----

人権
- 価値観 / 人権 / 文化 / セクシュアリティ
- ジェンダー

健康
- 健康とウェルビーイング
- 身体の発達
- 性と生殖に関する健康

安全
- 暴力と安全確保

コミュニケーション
- 人間関係
- セクシュアリティと性的行動

包括的性教育を学ぶことの効果

●命の大切さを理解し、自己肯定感・他者尊重をアップすることができます
●ジェンダーに関わらず、誰もが生まれてから死ぬまで生涯を通じて、性の課題と向き合っていることを理解し励ますことができます
●自分の人生を自分で選択できるために、自身の選択が自分や他者のウェルビーイングにどう影響するのかを考えることができます
●これまで、学ぶことができなかった大人自身が学び直すことで、共通認識が生まれ、間違った性の認識が排除できます